



ミスノメセナイベント「被災地の子供たちにピアノを」
チャリティーコンサート プログラム（歌とピアノ編）

2013.7.27 (株)ミスノ内「ヴィレボヌール」

ソプラノ独唱 小石亜希子、ピアノ 赤松林太郎



☆ヘンデル：オラトリオ「メサイア」より、「シオンの娘よ、大いに喜べ」

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル（1685～1759）は、バッハと並ぶドイツ・バロックの作曲家で、現代のポップスにもつながるメロディメーカー。

この曲は、ハレルヤ・コーラスでも有名な宗教曲「メサイヤ」（救世主）のなかの第Ⅰ部「救世主到来の預言と誕生、メシアの宣教」の16番目に歌われるソプラノの独唱曲。「シオンの娘よ、大いに喜べ。エルサレムの娘よ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたの所へ来られる。この方は正しい方で、救いを賜わり、異教徒に平和を説くだろう」と救世主の誕生を告げている。

☆やなせたかし作詞、木下牧子作曲：「ひばり」

アンパンマンの作者で知られ、作詞家でもある漫画家 やなせたかし作詞の歌。

“小さくてか弱い動物”の象徴でもある ひばりがテーマ。小さな小さな ひばりは、大きな鳥のように、1回の羽ばたきで遠くまでいけないが、その小さな翼を一生懸命羽ばたかせながら空高くまで舞い上がっていく、夢に向かって…。

ソプラノ独唱 足利真貴、ピアノ 赤松林太郎

☆ヘンデル：オペラ「エジプトのジュリアスシーザー」より、
「このように、ただ一日のうちに～この胸に息のある限り」

3幕3場で捕われの身となったクレオパトラのアリア。愛するシーザーの死を聞き知り、嘆きと神への祈りが入り交じる独白から始まる。アリアは単純な始まりだが、絶望の感情を秘めている。そして兄であるトロメオへ次第に復讐の怒りを投げかける。



☆ドニゼッティ：オペラ「ルクレツィア・ボルジア」より、「なんと美しい！」

イタリアのオペラ作曲家ガエターノ・ドニゼッティ（1797～1848）作曲のオペラ。悪女として伝えられる実在の人物ルクレツィア・ボルジア[1480- 1519]を描く。

いわくありげに仮面をつけたルクレツィアが gondola に乗って現れ、眠っている若い男にそっと近づき「なんと美しい！」と歌う。その若い男は生き別れになった実の息子ジェンナーロ。それを知るのはルクレツィアただ一人…。

（裏面に「ピアノ編」）